

演題名：茨城県内保健所における HIV 検査受検者の動向

【目的】

茨城県が提供する HIV 検査の効果的な運営の一助とすることを目的に、県内保健所 HIV 検査受検者の特性及び COVID-19 流行開始前後における動向変化を明らかにする。

【対象と方法】

2017～2022 年度に茨城県内 4 保健所で実施した HIV 検査受検者及び感染症発生動向調査による県内 HIV/AIDS 症例の情報を収集し、記述・解析疫学を行った。なお、COVID-19 流行開始前を 2017～2019 年度、流行開始後を 2020～2022 年度と定義した。

【結果】

茨城県内 4 保健所で実施した HIV 検査 3,474 例、感染症発生動向調査に報告のあった 85 例を分析対象とした。検査受検者は、20～40 歳代の日本国籍の男性に多かった。性的接触をきっかけに検査を受検した者の割合は 76%、性的接触時にコンドームを使用しなかった者の割合は 61%であり、過去の検査受検回数が多いほどコンドームを使用した者の割合が高かった。COVID-19 流行開始後、検査陽性者数は減少したが、県内の感染症発生動向調査による届出数は横ばいであった。流行開始後、念のため検査を受検した者の割合が増加し、そのうち、相手の属性が「初めての相手」である割合、「いつもの相手」「風俗」では性的接触の時期が 1 年以上前である割合が増加した。

【考察】

茨城県における保健所 HIV 検査は、HIV/AIDS のハイリスク層を主なターゲットとした検査を実施できていた。ただし、保健所検査休止等の影響により、保健所検査により捕捉されていたであろう症例が捕捉できなかった可能性及び HIV 検査受検時期が遅くなった者が一部存在した可能性が推察されたことから、HIV/AIDS の早期発見には保健所検査が有用であると考えられた。また、保健所検査受検者の感染予防行動には、検査受検時の保健指導が重要であると考えられた。